

患者さんのエイジングに備える

高齢者への 歯周治療と 口腔管理



監著

吉江弘正

新潟大学・教授

吉成伸夫

松本歯科大学・教授

米山武義

静岡県開業

オーラルフレイルから全身疾患と歯周病、
患者の病態に応じた対応まで、
そのすべてを網羅

日本の歯科が直面するこのテーマに、
総勢70名の豪華執筆陣が正面から挑む本邦初の本格書。
臨床現場で起き続ける「こんな時、どうする？」の答えが
必ずみつかります。

A4判 296ページ フルカラー
ISBN 978-4-909066-05-3 C3047
定価 19,980円(税込)

超高齢社会の波が
診療室に押し寄せています。

「うちの患者さんもだいたい高齢化してきたな…」
全国各地で聞かれるこんな声。

一流の研究者、臨床医70名が執筆

監著
吉江弘正 新潟大学大学院医歯学総合研究科、歯周診断・再建学分野、教授
吉成伸夫 松本歯科大学・歯科保存学講座（歯周）、教授
米山武義 静岡県、米山歯科クリニック、歯科医師

著者（50名）
足立 融 鳥取県、あい・あだちデンタルクリニック、歯科医師
飯島勝矢 東京大学、高齢社会総合研究機構、教授
石黒幸枝 米原地域包括医療福祉センター「ふくしあ」、歯科衛生士
石田雄一 徳島大学大学院医歯薬学総合研究科、口腔顎顔面補綴学分野、講師
磯部昭夫 昭和大学歯学部、高齢者歯科学講座、助教
市川哲雄 徳島大学大学院医歯薬学総合研究科、口腔顎顔面補綴学分野、教授
井上 誠 新潟大学大学院医歯学総合研究科、摂食嚥下リハビリテーション学分野、教授
植田耕一郎 日本大学歯学部、摂食機能療法学講座、教授
宇田川信之 松本歯科大学口腔化学講座、総合歯科医学研究所、教授
江面 晃 日本歯科大学、新潟病院総合診療科、教授、口腔ケア機能管理センター長
遠藤英俊 国立長寿医療研究センター、長寿医療研修センター長
小笠原 正 松本歯科大学、障がい者歯科学講座、教授
小川祐司 新潟大学大学院医歯学総合研究科、予防歯科学分野、准教授
奥田一博 新潟大学大学院医歯学総合研究科、歯周診断・再建学分野、教授
尾崎友輝 松本歯科大学、歯科保存学講座、准教授
菊谷 武 日本歯科大学口腔リハビリテーション科、教授
岸本裕充 兵庫医科大学、歯科口腔外科学講座、主任教授
栗原英見 広島大学大学院医歯薬保健学総合研究科、歯周病態学研究室、教授
黒川裕臣 日本歯科大学、新潟病院総合診療科、教授
小出雅則 松本歯科大学口腔化学講座、総合歯科医学研究所
光銭裕二 北海道、光銭歯科医院、歯科医師
小林直樹 岡山県、万成病院、歯科医長
小井芳友 岡山県、積善病院歯科、歯科診療部長
五味一博 鶴見大学歯学部、歯周病学講座、教授
坂上竜資 鶴見大学歯学部病理学講座、同大附属病院ドライマウス外来、教授
佐藤裕二 福岡歯科大学、口腔治療学講座歯周病学分野、教授
佐藤裕二 日本歯科大学新潟生命歯学部、歯周病学講座、教授
清水 智幸 九州大学大学院歯学研究院、口腔機能修復学講座、歯周病学分野、助教
下田 静 東京都、東京国際クリニック / 歯科、歯科医師
杉山清子 熱海ちとせ病院、管理栄養士
菅 武雄 三島総合病院、管理栄養士
関野 愉 鶴見大学歯学部、高齢者歯科学講座、講師
高橋 啓 日本歯科大学 生命歯学部、歯周病学講座、准教授
高橋賢晃 愛媛県、たかはし歯科、歯科医師
田口 明 日本歯科大学附属病院、口腔リハビリテーション科、講師
武井典子 松本歯科大学、歯科放射線学講座、教授
東 幸仁 公益財団法人ライオン歯科衛生研究所、公益社団法人日本歯科衛生士会、歯科衛生士

竹内照美 静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科、レジデント
恒石美登里 日本歯科総合研究機構、主任研究員
角町正勝 長崎県、角町歯科医院、歯科医師
内藤 徹 福岡歯科大学、総合歯科学講座高齢者歯科学分野、教授
永原隆吉 医療法人社団日本鋼管福山病院歯科、科長
中村美どり 松本歯科大学口腔化学講座、総合歯科医学研究所
中村祐己 兵庫医科大学、歯科口腔外科学講座、助教
西村英紀 九州大学大学院歯学研究院、口腔機能修復学講座、歯周病学分野、教授
沼部幸博 日本歯科大学 生命歯学部、歯周病学講座、教授
白田千代子 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科、歯科衛生士
花形哲夫 山梨県、花形歯科医院、歯科医師
東 幸仁 広島大学原爆放射線医科学研究所ゲノム障害医学研究センター、教授
平野浩彦 広島大学病院未来医療センター、センター長
古市保志 東京都健康長寿医療センター、歯科口腔外科、部長
星野由香里 北海道医療大学歯学部、歯周歯内治療学講座、教授
イェテボリ大学歯周病専門診療室、歯科衛生士
エストヨーランド地方公共衛生学研究所、歯科衛生士
細野 純 東京都、細野歯科クリニック、歯科医師
松尾浩一郎 藤田保健衛生大学医学部歯科、教授
松本めぐみ 東京都、馬込中央診療所歯科、歯科医師
宮崎秀夫 新潟大学大学院医歯学総合研究科、予防歯科学分野、教授
森田一彦 静岡県、森田歯科医院、歯科医師
両角俊哉 新潟大学歯学総合病院予防・保存系歯科 歯周病科、病院講師
両角祐子 日本歯科大学新潟生命歯学部、歯周病学講座、准教授
文字山 穂瑞 東京西の森歯科衛生士専門学校西東京口腔ケアステーション歯科衛生士
山根源之 東京歯科大学名誉教授
(元東京歯科大学オーラルメディスン、口腔外科学講座、主任教授)

山本龍生 神奈川県川崎市立中央病院、口腔科学講座、社会歯科学分野、教授
山本松男 昭和大学歯学部、歯周病学教室、教授
百合草健志 静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科、部長
吉田光由 広島大学大学院医歯薬保健学総合研究科、先端歯科補綴学研究室、准教授
吉田春陽 大阪府、吉田歯科医院、歯科医師

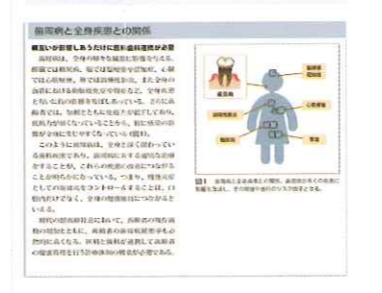
PART2 学術編

知識のすべてはPART2で!

高齢者への歯周治療の目的は、「重症化」と「全身性リスク」の回避にあります。本 PART では、高齢者の代表的疾患・障害・症状を「口腔領域疾患」、「生活習慣病」、「老年病・老年症候群」に分け列挙、歯周治療との関連性にも言及しています。高齢者への歯周治療の意義、特性の解説とともに、その対策と治療上の注意点もまとめられています。

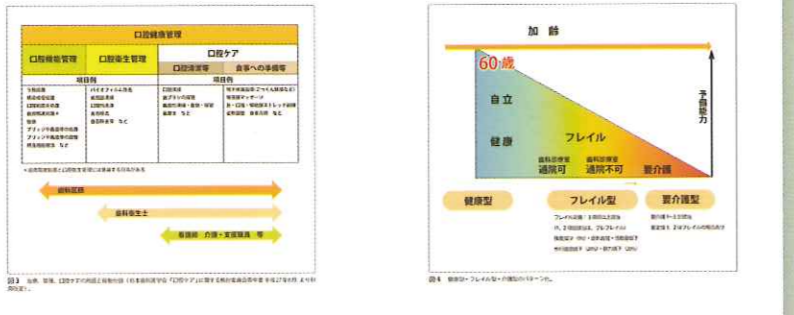
1-3 閉経前、心筋梗塞、肺炎等と歯周病との関連性と因果関係

SUMMARY
閉経前、心筋梗塞、肺炎、多くの疾患に歯周病が関連している。それらの疾患の発症や重症化を予防する。
歯周病は全身疾患の発症や重症化を予防する。歯周病を予防することで全身疾患の発症や重症化を予防する。歯周病を予防することで全身疾患の発症や重症化を予防する。



治療と管理のオーバーステアと低年齢患者の役割分担

口腔健康状態
口腔衛生管理
口腔ケア



PART1 コンセプト編

まずは高齢者の多様性をつかむ!

高齢者の最大の特徴は「多様性」。健康から要介護5まで幅広く、1つの基準での診断、治療、管理は難しい。本書では病態ステージを3つにパターン化し、それぞれのステージに必要な考え方、治療目標の指針をまとめています。

患者さんのエイジングに対するすべての答えがここにある

備えあれば、憂いなし!

PART3 実践編

病態別、場所別の考え方、現場でのノウハウがすぐに調べられる

どんな場面でも対応できるよう実践に必要な重要ポイントを様々な角度から網羅。高齢者の病態別、場所別歯周治療の実際はもとより、多職種連携による口腔管理の考え方、治療上の安全性の確保、インプラント治療対策と管理、健康教育の考え方までをカバー。

1-2 地域における介護予防を視点とした歯周治療の重要性

SUMMARY
高齢者への歯周治療は、地域における介護予防の重要な視点である。歯周病を予防することで、高齢者の生活の質を向上させ、介護予防に貢献できる。歯周病を予防することで、高齢者の生活の質を向上させ、介護予防に貢献できる。



PART4 海外に学ぶ

今後の高齢者への歯周治療をさらに追求する上での参考例として、スウェーデンの例を学べます。

本書の特徴

- ①知りたいテーマにすぐリーチできる
- ②各テーマの重要事項をサマリーで読める
- ③実践に必要なことを半ページから1ページ単位で絞って読める
- ④わかりやすいイラスト、図でビジュアルに理解できる

Part1 コンセプト編

- CONCEPT 1** 今なぜ、高齢者への歯周治療が、求められるのか？
CONCEPT 2 介護予防として的高齢者歯周治療と口腔管理の必要性
CONCEPT 3 フレイル概念から考え直すオーラルフレイル

Part2 学術編

第1章 高齢者への歯周治療と口腔管理の今日的意義と価値

- 1-1 高齢者における歯の保存、機能の確保、QOLの維持向上の意義
- 1-2 高齢者における歯周病罹患率の推移から考える
- 1-3① 糖尿病、心筋梗塞、肺炎等と歯周病との関連性と因果関係
- 1-3② 骨粗鬆症と歯周病との関連性と因果関係
- 1-4 WHOが提唱するNCDsと歯周病の関連性から考える
- 1-5 老年症候群の種類と病態
- 1-6① 咀嚼と歯周病と生命予後
- 1-6② 口腔機能と歯周病
- 1-6③ 唾液の機能と口腔乾燥症（ドライマウス）
- 1-6④ 高齢者の摂食嚥下障害と歯周病

第2章 高齢者への歯周治療と口腔管理の特性を理解するための基礎知識

- 2-1 加齢による歯・歯周組織の変化と対策治療上の注意点
- 2-2 免疫・骨の変化と対策・治療上の注意点
- 2-3 血管系の変化とその対策・治療上の注意点
- 2-4① 発熱・誤嚥性肺炎予防としての専門的口腔管理の根拠
- 2-4② 菌血症
- 2-5 精神・心理状態や生活環境の変化とその対策と治療上の注意点
- 2-6 認知症
- 2-7 高齢者の栄養管理

Part3 実践編

- CONCEPT 1** 病態別歯周治療・口腔管理のストラテジー
CONCEPT 2 超高齢社会における歯周治療のゴール

第1章 病態別高齢者への歯周治療と口腔管理

- 1-1① 通院高齢者への歯周治療
- 1-1② 高齢者に対する抗菌療法の位置づけ
- 1-1③ 加齢に備える咬合とは
- 1-2① フレイル患者に対する歯周治療の位置づけ
- 1-2② 地域における介護予防を視点とした歯周治療の重要性
- 1-3① 要介護者に対する歯周治療の意義と位置づけ
- 1-3② 歯科診療室からのシームレスな対応
- 1-3③ 大学病院と地域連携①システムとしての連携
- 1-3④ 大学病院と地域連携②現場での歯周病学的観点からの対応
- 1-3⑤ 周術期口腔機能管理
- 1-3⑥ 要介護における器材・材料の応用
- 1-3⑦ 義歯のメンテナンスとケア

第2章 場所別の高齢者症例

- 2-1 慢性期病院：終の住処となった慢性期病院において、看取りの時期まで入院生活を援助した重度認知症の症例
- 2-2① 特養とその他の介護施設：介護老人保健施設における高齢者歯周治療：セルフケアの自立支援への取り組みの一例
- 2-2② 特養とその他の介護施設：特別養護老人ホームでの歯科衛生士による口腔管理対応の一例
- 2-2③ 特養とその他の介護施設：職員や看護師、面会やボランティアの人たちまで巻き込みでの口腔ケア（歯周管理）
- 2-3① 在宅：通院困難となり、ケアと家族介護の支援を行い、最後まで誤嚥性肺炎を起こすことなく、看取りに至った一例から
- 2-3② 在宅：通院の歯科診療の患者が高齢になり、在宅の口腔ケアに移行しながら継続的な定期管理を続けている一例
- 2-3③ 在宅：進行性疾患によりADLが低下した在宅療養患者に、歯周疾患および摂食嚥下・咀嚼機能低下への対応を行った一例
- 2-3④ 在宅：脳血管障害後遺症である右片麻痺と言語障害に対する訪問歯科治療とリハビリテーションを行った一例から

第3章 多職種連携を通じた口腔管理の必要性

- 3-1 歯周病治療を基軸とした多職種連携のミッション
- 3-2 多職種連携の必要性と診療室の役割の変化
- 3-3 地域における多職種連携の実際（訪問看護師・ケアマネジャー・介護職他）
- 3-4 病院内における多職種連携（主に看護師）

第4章 高齢者歯周治療を安全に行うために

- 4-1 高齢者歯周病治療を行う上で重要な口腔咽頭機能の評価
- 4-1 歯周治療前のアセスメントの重要性
- 4-2 粘膜ケアの重要性
- 4-3 咽頭ケアの必要性と方法 歯科から発信する技術：口腔咽頭吸引
- 4-4 口腔リハビリテーション
- 4-5 終末期における口腔管理

第5章 超高齢社会におけるインプラントの位置付けと管理

- 5-1 インプラントの位置づけ
- 5-2 インプラント周囲疾患への対策と管理

第6章 高齢者に対する健康教育

- 6-1 定期健診の重要性と健康教育のポイント

Part4 海外に学ぶ

スウェーデンにおける高齢者歯周治療

注文票

品名	税込価格	冊数
患者さんのエイジングに備える 高齢者への歯周治療と口腔管理	19,980円	



インターアクション株式会社
 東京都武蔵野市境南町 2-13-1-202
 TEL 070-6563-4151 FAX 042-290-2927
<http://interaction.jp>